

砂丘地におけるアールスメロンの播種期

北川 守・丸山 康広・菅原 眞一・大嶋 博之*

(山形県立砂丘地農業試験場・*鶴岡農業改良普及所)

Effects of Sowing Time of Earl's Melon in the Sand Dune Region

Mamoru KITAGAWA, Yasuhiro MARUYAMA, Shinichi SUGAWARA
and Hiroyuki OOSIMA*

(Yamagata Prefectural Sand Dune Agricultural Experiment Station ·)
*Tsuruoka Agricultural Extension Service Station

1 はじめに

山形県庄内砂丘地では、古くからメロンが導入され、現在はプリンスからアンデスに主要品種が変わっている。作型は、6月下旬～7月中旬収穫のハウス早熟栽培、7月下旬～8月下旬収穫のトンネル早熟栽培が主体となっている。このため、7月と8月が出荷のピークとなっており8月の東京都中央卸売市場のアンデス入荷量は、約80%を山形県産が占めているが、出荷期間が短い。

また、近年、産地間競争が激しくなっており産地の銘柄を高めるべく、出荷時期の拡大が望まれている。しかし、気象条件から考えて作期拡大のための前進化は困難である。そこで、抑制栽培の作型として、アールスメロン(アールスクイン)をとりあげ、高品質生産可能な播種期について検討した。

2 試験方法

(1)試験圃場：山形県立砂丘地農業試験場(山形県酒田市)

砂丘未熟土(内籾統)

(2)供試品種：アールスクイン(山形県立園芸試験場育成)

(3)試験区

1) 昭和61年 表1

2) 昭和62年 表2

(4)栽培概要

うね幅；2.7m, ベッド幅；1m, 株間；45cm, 2条植え, シルバーマルチ使用, 立ち栽培, 1株1果どり, ハウス地

表1 昭和61年；試験区

区	播種期	定植期
1	6月22日	7月21日
2	7月2日	7月28日
3	7月12日	8月3日

表2 昭和62年；試験区

区	播種期	定植期
1	6月10日	6月29日
2	6月20日	7月8日
3	7月4日	7月23日

床栽培。

3 試験結果

(1)昭和61年

雌花着生は、6月22日、7月12日の播種期が劣った。これは、6月22日は育苗期の気象条件が悪く、また、活着まで時間を要したこと、7月12日は、定植後の温度が影響したためと考えられる。

着果は、各播種期とも良好であった。

果実肥大は、6月22日、7月2日播種は目標の大きさに達したが、7月12日播種は劣った。7月12日は、着果後の温度が低めに経過し、晴天目が少なかったことが影響したものと考えられる。

ネット等の外観は、7月12日播種の盛上がり劣り、総合評価が最も劣った。

糖度は、6月22日が高いが、その他は同等であった。

以上のことから、高品質生産に適する播種期は6月下旬から7月初めまでであり、収穫期は10月上旬となる。7月中旬の播種は果実肥大、外観が劣り、安定生産にかける。

表3 昭和61年；雌花着生・交配日・着果節位・収穫日

区	着果節位 ¹⁾			収穫果		
	雌花着生率(%)	着果率 ²⁾ (%)	交配期間	平均着果節位	平均交配日	平均収穫日
1	50.0	100	8/18～8/22	12.8	8/20	10/9
2	80.0	100	8/23～8/26	12.6	8/24	10/14
3	41.7	100	8/28～8/31	11.7	8/29	10/23

注. 1)：1・2区は12～14節, 3区は11～14節。

2)：着果数/雌花数×100。

(2)昭和62年

雌花着生は、6月10日播種が劣った。6月10日播種は、10節からの着果を目標としたが、10～11節の雌花着生が特に劣り、更には素質も劣った。これは、定植後の日照不足が影響したためと考えられる。

着果は6月20日播種が低かったが、これは、雌花が着生したものの、開花前あるいは開花後に子房が黄化し退化したため着果率が低下した。7月4日播種は、着果は比較的

表4 昭和61年；果実形質

区	果重 (g)	果径 (cm)		ネット			果形 ¹⁾	総合 ¹⁾	果梗長 (cm)	糖度 (Brix %)
		たて	よこ	盛上り ¹⁾	密度 ²⁾	太さ ³⁾				
1	1,369	13.2	13.4	2.2	2.1	2.0	3.0	2.2	2.6	14.7
2	1,457	13.4	13.7	2.3	2.2	2.0	2.9	2.1	2.5	13.7
3	1,243	12.3	13.1	2.0	2.1	2.0	2.9	1.8	1.9	13.6

注. 1) : 3 (良) ~ 1 (不良) 2) : 3 (密) ~ 1 (粗) 3) : 3 (太) ~ 1 (細)

良かったが、開花期に曇雨天日が続いたため着果後、花落ち部からの腐敗が多かった。

果重は6月10日播種が最も重く、その他はほぼ同程度であった。

果形は6月10日がへん平、6月20日が球形、7月4日がややへん平となった。この原因は、6月10日は雌花素質が劣ったため初期の肥大が劣ったこと、7月4日は肥大を促進するための水・温度管理が影響したものと考えられる。

ネット形質は総合的に6月10日、20日播種が優れた。特に、6月10日播種はネットが完全にゆなし外観が良かった。糖度は、各播種期とも15.0%以上と高かった。

以上のことから、6月10日播種は果形がへん平となるため、6月20日、7月4日播種で高品質生産が可能である。

表5 昭和62年；雌花着生・着果

区	平均 ¹⁾ 開花日	雌花 ¹⁾ 着生率 (%)	雌花 ¹⁾ 退化率 (%)	着果率 ²⁾ (%)	幼果 腐敗率 (%)
1	7/28	64.2	0	78.8	0
2	8/5	82.5	47.3	51.2	0
3	8/19	86.3	15.9	78.7	59.3

注. 1) : 1区 : 10~13節, 2・3区 : 12~14節。
2) : 着果数 / 雌花数 × 100。

表6 昭和62年；果実形質

区	平均 収穫日	着果 節位	交配日	果重 (g)	果径 (cm)		果径比	ネット		果形 ²⁾	果溝 ³⁾	総合 ²⁾	糖度 (Brix %)
					たて	よこ		密度 ¹⁾	盛上り ²⁾				
1	9/17	12.8	7/29	1,631	13.4	14.6	0.91	2.1	2.1	2.4	0.7	2.0	15.2
2	9/25	13.7	8/5	1,364	13.2	13.3	0.99	2.1	2.2	2.9	0	2.1	15.0
3	10/11	14.3	8/20	1,395	12.7	13.7	0.93	2.1	1.9	2.9	0.2	1.9	15.1

注. 1) : 3 (密) ~ 1 (粗) 2) : 3 (良) ~ 1 (不良) 3) : 0 (無) ~ 3 (多)

4 ま と め

2か年の結果から、砂丘地におけるアールスクインの高品質生産が可能な播種期は、6月20日ころから7月5日ころまでが適すると考えられる。この場合の収穫期は9月下

旬から10月中旬となる。今後は、①アールスクインでネット形質がすぐれた早い播種期での栽培法の検討、②7月5日より遅い播種期で高品質生産のできる品種の選定が必要である。